

# 財政政策論Ⅱ

科目ナンバリング ECP-308  
選択 2単位

高井 正

## 1. 授業の概要(ねらい)

市民革命後に誕生した市場社会には、市場経済と財政という2つの経済が存在する。このうちの財政は、中央政府や地方政府(都道府県・市町村)が民主主義に基づいて営む「公の経済」であり、租税を主たる収入源として、警察・消防・教育などの公共サービスの提供や、道路・公園・上下水道などの公共インフラの整備が行われている。現在の日本の財政規模(歳出総額)は対GDP比で約37%(アメリカは約35%、ドイツは約45%、フランスは約55%)を占めている状況にある。

財政学は、このように現代の市場社会の中で重要な役割を担っている「財政」を対象とする学問であり、予算論・租税論・公債論・公共支出論・地方財政論・社会保障論・公企業論などで構成されている。

この講座は、経済学の基礎を一通り学んだ3年次に配当されている選択科目であることから、財政学の「本編」として講義を行う(財政学の「入門編」の講義は2年次の選択必修科目として配当されている「財政学Ⅰ・Ⅱ」で行う)。

講義形式は、毎回、テキストの内容を基に「スクリーンの筆記→解説及びその筆記」を繰り返す方式で行う。したがって、「ノート筆記」が不可欠な講義である。

## 2. 授業の到達目標

- ・学生が、ノート筆記により、仕事で必要不可欠な「メモ取り能力」(筆記力)を修得する。
- ・学生が、財政支出と支出対象の関係を説明できる。
- ・学生が、国と地方の政府間財政関係を説明できる。
- ・学生が、現代財政が抱える「財政課題」を説明できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

- ・小テストの成績(20%)と期末試験の成績(80%)で評価する。
- ・小テストおよび期末試験は、「テキスト・ノートの持込み可」とする。
- ・小テストおよび期末試験は、「テキスト・ノートの内容」から出題する。

※出席率が2/3未満の学生は、仮に小テストおよび期末試験を受験したとしても「元々受験資格がない」ため、「不合格」となるので注意すること。

## 4. 教科書・参考文献

教科書

神野直彦 『財政学[第3版]』、2021年 有斐閣

## 5. 準備学修の内容

毎回の授業で指定する「次のテキスト範囲」を事前に読み、不明点・専門用語の意味等を必ず理解しておくこと。

## 6. その他履修上の注意事項

- ・ノート筆記が不可欠な授業であることから、欠席した授業の内容は自己責任で入手(友人のノートを借用)すること。
- ・財政学の全体像を理解する観点から、前期の講座である「財政政策論Ⅰ」との連続履修が望ましい。
- ・他人に迷惑をかける行為である「私語」は厳禁(ノート筆記に集中すること)。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス:前期の総括(フィードバック)と後期の概要
- 【第2回】 貨幣支出としてのアウトプット
- 【第3回】 3つのサブシステムと公共支出
- 【第4回】 オプションとしての公債と公債原則
- 【第5回】 地方財政と中央財政①:複数の「政府」
- 【第6回】 地方財政と中央財政②:複数政府の変遷
- 【第7回】 地方財政の理論と実際①:地方税の課税形態
- 【第8回】 地方財政の理論と実際②:財政調整制度&小テスト
- 【第9回】 政府としての社会保障基金①:社会保障とは&小テストの講評(フィードバック)
- 【第10回】 政府としての社会保障基金②:社会保障の現実
- 【第11回】 公企業と財政投融资
- 【第12回】 財政の過去から未来へ①:産業の変遷
- 【第13回】 財政の過去から未来へ②:市場社会のグローバル化
- 【第14回】 後期の総括(フィードバック)と期末試験の説明<オンライン授業>
- 【第15回】 まとめと期末試験